

Ecola

イ・コ・ラ

No. 25

発行 2017年6月4日

皆さまいかがお過ごしですか？月日はあっと言う間に巡り、またまたイコラ発刊の時期になりました。

春になり新生活をスタートさせ、環境の変化に戸惑いながら頑張っている子ども達もたくさんいると思います。親としてはそんな子ども達に寄り添い、温かく見守り、少しでも早く落ち着いた日常を送れるように力になりたいものです。良いニュースよりも悪いニュースが多い昨今ですが、せめて子ども達の周りだけでも明るいニュースが多くなるよう祈っています。

(ここからはブルゾンちえみ風に)

だって、この地球上に自閉症者は何人いると思ってるの？

「...2170万人」(2013年 Wikipedia)



和歌山県・和歌山市との対話集会

「和歌山県との対話集会」が行われました。
平成28年10月13日(木)
和歌山県子ども女性障害者相談センターにて
参加者は11名(うち和歌山市分会9名)



「和歌山市との対話集会」は
平成28年11月29日(火)
和歌山市中保健センター3F大ホールにて
行われました。参加者は16名でした。



療育セミナー

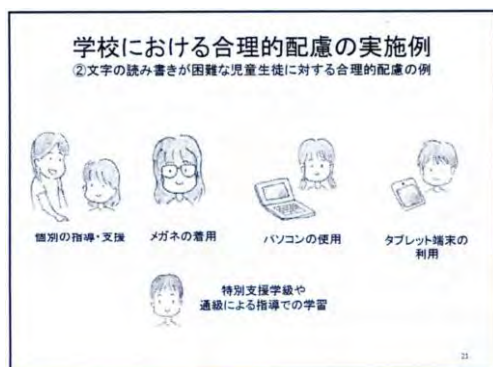
平成 28 年 11 月 23 日（水・祝）
中央コミュニティセンター 多目的ホール小

講演 「特別支援教育における合理的配慮」
～障害のある本人の「声」をきく～

和歌山大学教育学部准教授 古井克憲氏



平成 28 年 6 月発行のイコラ No.23 「岡先生のワンポイントアドバイス②」にも掲載されておりましたように、28 年 4 月 1 日から「障害者差別解消法」が施行され、学校教育においても合理的配慮が注目されるようになってきています。今回は、具体的にどういう事が合理的配慮にあたるのかをわかりやすく説明されておりました。



- 合理的配慮を進めていくためには、本人、保護者、学校、職場などで「平等」「特別扱い」に関する適切な理解が必要
- 特別支援教育では、本人に必要な合理的配慮を見つけるために、学習活動を計画、提案する機会を作ることが求められる
- 保護者も、本人の「声」を聴きながら、必要な配慮を対話を通して求めていく、調整していく姿勢が求められる

セミナーレジュメより

母親クッキング

中央コミュニティセンター 調理室

- 第3回 平成 28 年 11 月 16 日（木） 参加者…18 名
（メニュー）炊き込みご飯、豚汁、だし巻き卵のあんかけ、きゅうりの酢の物、パウンドケーキ、みかん
- 第4回 平成 29 年 1 月 25 日（水） 参加者…19 名
（メニュー）おでん、とりのから揚げ、野菜の味噌汁、ご飯、つけもの、ケーキ、はっさく



就学期お母さんの交流会

平成 28 年 11 月 1 日 (火) 参加者 6 名 (うち一般 2 名)

12 月 8 日 (木) 参加者 5 名 (会員限定)

平成 29 年 3 月 9 日 (木) 参加者 12 名 (うち一般 7 名)

28 年度は、会員限定 1 回、一般参加可能な会を各学期 1 回ずつ開催しました。開催日の約 1 週間前に申込みを締め切ってみないと参加人数がわからず、11 月 1 日のように一つのテーブルで十分な時から、3つのグループに分けて話さないといけない等、グループ分けに困る時もあります (^_^)



3 月 9 日の交流会では、一般参加 7 名のうち、

5 名が現在地域の

小学校や幼稚園に通っている方でした。会員は 5 名とも支援学校に通っていて地域の学校の事がわからないので、一般参加の方同士で話してもらいました。その中で、デイサービスで「勉強を教えてくれるところがある」と話題に上がっていました。こんな風に情報交換の場として、一般の方もたくさん参加してほしいですね。



12 月の会員限定の交流会は、就労継続支援 A 型事業所の『十四階農園』で開催しました。お店の名前を聞いたことがある方もいらっしゃると思いますが、市役所の 14 階にあるビュッフェスタイルのレストランです。お店のどこにも作業所であることが書かれていないので、知らないで利用された方もいるのではないのでしょうか。

予約の際にお願いをして、指導員さんの案内で、厨房で作業をしている所を見せていただきましたが、どの人が利用者でどの人が支援員さんなのか、説明されないとわからないくらい手際よく作業されていました。経営母体が居酒屋さんということもあり、



ビールの製造に関わる作業所の展開も考えられているとうかがいました。

説明の後、ランチをいただきましたが、野菜を中心としたヘルシーなお料理が品数たくさん並んでいて、どれを食べてもおいしかったです。中でも、ソイミート(大豆ミート)のから揚げは言われるまでお肉だと思っていました。デザートまで食べておなかいっぱいになりました。



バレンタイン・ランチパーティー

平成 29 年 2 月 12 日 (日)
和歌山マリーナシティホテル
参加者 42 名 (19 家族)



今年度は、加太少年自然の家が改築中でバーベキューができないため、6年ぶりにホテルでのお食事会が開催されました。

白で統一されたマリーナシティホテルの宴会場、少し緊張しながら席に着くと…まわりはみんな知った顔ばかりで、きれいに盛られた前菜が運ばれる頃には笑顔が見られるようになっていました。

食事をいただきながらのカラオケ大会は、話題の

ピコ太郎の『PPAP』からキャンディーズのなつかしいナンバーやアニメソングまで飛び出し、みんなで口ずさんだりしていました。



食事の後はお楽しみのビンゴ大会。森岡大輔君と道窪大和君がプレゼンターとなってビンゴを回したり、番号

を発表してくれたり元気いっぱいでお手伝いをしてくれました。最初のビンゴの人がなかなか出ませんでした。なんとか終了予定時刻までには全員ビンゴが揃い、景品のバレンタインチョコを受け取り、お開きとなりました。



参加された道窪さん(母)の感想です

お店に入れず外食とは無縁でしたが、最近少しずつ外食の機会が持てるようになってきたので、ホテルランチ会に今回参加させていただきました。

当日ホテルに近付くにつれて緊張して表情が険しくなってきたのでどうなるかと心配しましたが、お友達と一緒にということもあり無事に席につくことができ良かったです。

カラオケタイムは少ししんどい部分もあり何度か部屋の外に出ましたが、お料理を美味しく食べて、ビンゴ大会ではマイクを持たせてもらい、景品も買ってすごく楽しそうでした。

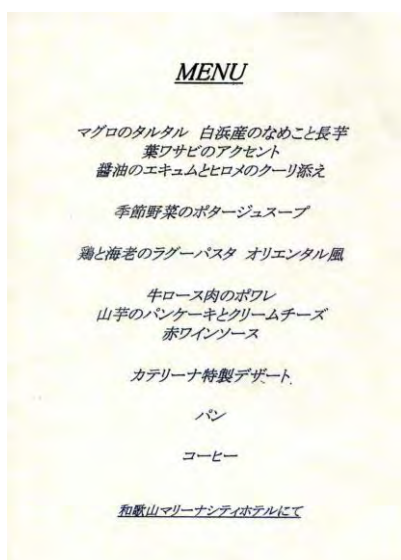
普段なかなかできない経験ができました。

ありがとうございました。

短いですが息子の感想です。

「楽しかった。マイクとビンゴが楽しかった。」





人権フェスタ

平成 28 年 11 月 19 日 (土)
和歌山ビッグホエール

今回は、ペアレントメンター協会と共同で、ブース展示と相談コーナーの参加となりました。例年のように書籍の販売、啓発パンフレットの配布、支援グッズの展示に加え、4月2日の世界自閉症啓発デーに和歌山県内で初めて行われた和歌山城のブルーライトアップの写真も展示されました。

また、ペアレントメンター協会では、自閉症・発達障害の模擬体験として、軍手を重ねてはめてキャラメルの紙をむいたり、コインをつかんだりといった手先の不器用さを体験してもらうコ

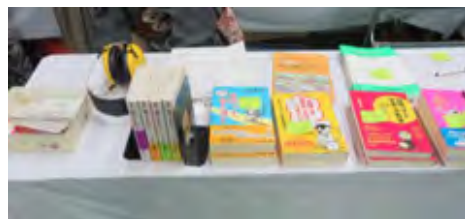


ーナーも設置されました。風船を使った壁飾りもかわいかったです。

ブース当番はそれぞれの班単位と役員、今回はメンター協会の会員さん（自閉症協会員と兼ねている方も数名いますが…）もいらしたので、他のブースやステージを見学したり、模擬店で買い物をしたりする時間がいつもより多くありました。

ブース当番をして下さった方々ありがとうございました。今回参加できなかった方、次回はお願ひしますね。懐かしい顔に出会うこともあり、楽しいですよ。





キラキラっとアート優秀賞受賞おめでとう！！

和歌山市分会の堀端桃朱さんが、障がいのある子どもたちの絵画コンクールである「第15回キラキラっとアートコンクール」の優秀賞を受賞しました！



～田辺恭子先生からのメッセージ～

桃朱さんは、小学生の頃から当教室に通っています。

動物を描くことが大好きで、何も見ないで、細かい所まで丁寧に描くことができます。着色も納得いくまで、一つ一つの色を作り、光や影まで表現しています。

桃朱さんは、本当に根気よく作品に向き合う力を持っています。

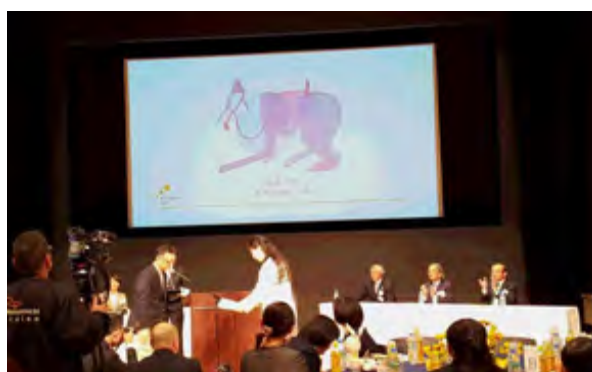
これからも、素敵な絵を描いてくださいね。応援しています。

桃朱さんが通っている田辺絵画教室は、発達障害を持つ子どもを対象にしたクラスがあり、会員のお子さんが何人も習っています。

絵を描くことのほか、ちぎり絵やカラーシユなどを通して、手の握力や微細運動の向上、自己表現力を伸ばすことなども図られています。また親同士のコミュニケーションや情報交換の場にもなっています。会員でもある

田辺先生は臨床発達心理士の資格をお持ちなので、色々相談にも乗っていただけますよ。興味のある方はぜひ一度体験に行ってみてくださいね。

(田辺絵画教室 ☎ 073-455-0399)



岡先生のワンポイントアドバイス②④

「基本的な生活習慣を整えるために」

和歌山さくら支援学校 岡 潔

自閉症スペクトラム児者の特性として、社会性、コミュニケーション、想像力、感覚のことが取り上げられることが多いです。それゆえに、「自閉症だからたいへん」といつのまにか家族も周囲もすり込まれてしまっていないでしょうか。

自閉症スペクトラム児者のたいへんさは、誤学習（間違っ覚えてしまいパターン化してしまっている）や未学習（常識だろうと思われて何も教えられていない）から派生されています。だから、食事、排泄、睡眠、人との関わり方から始まり、時間の概念、お金の使い方、友達関係、異性との距離感などルールだけではなくエチケットやマナーに至るまで生きていくのに必要な力として家庭と園・学校が連携して指導していく必要があります。あきらめずに根気強く続ければ、必ず生活適応力は向上していきます。

基本的な生活習慣（ライフスキルとも言う）を身につけていくためには、周囲が初めて教える時が重要になってきます。そして、その支援を行うときにどれだけ自閉症スペクトラムの特性を理解しているかが大きく左右されます。

学校や家庭から「困ったときは人に聞けるようになってほしい」と目標に挙げられることがよくあります。援助を求めるスキルを身につけることはそんなに容易なことではありません。変化に弱い自閉症スペクトラム児者の不安の強さは半端ではありませんから、常に同じことを何度も聞いてしまう人もいるかもしれません。時には、知らない人に唐突に尋ねてしまって怪訝な目で見られることもあるかもしれませんね。

見通しが弱いという特性をしっかり押さえて、「いつ」「どこで」「何を」「どのように」「いつまで」を伝えてあげる支援を根気強く続けていくことが必要です。しかも、言葉はすぐに消えてしまいますから、視覚的なスケジュールが有効的な支援グッズになります。「スケジュールはいつまで必要ですか？」とよく聞かれますが、本人がいないと言うまでと答えるようにしています。成長とともにアバウトな情報を受け入れられるようになってきたり、大まかな予定で安定していただけるようになってきたりしますが、これも最初の丁寧な支援があつてのことだと思えます。

人とのコミュニケーションの取り方も難しい課題です。幼少期は許されていたスキンシップも大きくなると奇異に見られますし、親しい人になら伝わる片言の言葉も人が変わると聞き取ってもらえないこともあります。どの人にも分かるように、どの人にも受け入れられる方法を伝えていくことが大切です。子どもたちには、ジェスチャーやカード、支援機器など使えるものは何でも試して、一人で伝えられる力を教えていきたいものです。これら一人一人に合ったものを用意していくのが合理的配慮ですからね。そして目指すのは自立です。「手伝って」が言えたらパニックになる回数は絶対に減ると思います。

生活習慣のベースになるのは、衣・食・住ですね。これらを支援する際にも、普通のしつけですと身につけていく子もいますが、自閉症スペクトラムの特性を踏まえた支援が必要にな

ることも多々あります。偏食などは最たるもので、どんなにみじん切りにしても口から出してしまう子がいます。気になり出したら細部にとことんこだわりますからね。嫌いな食べ物でも励ましながら乗り越えられる子もいますが、成長と同時に口の中の過敏性が薄れてくるのを待たなければいけないケースも多いです。大人の私たちにも苦手なものがあるように、彼らの個性を認めてあげることも大切なのではないのでしょうか。人と食事することは一生続くわけですから、ルールやマナーを丁寧に伝え、将来困らないようにしてあげたいものですね。

子どもたちに身に付けてもらいたいスキルや知識を分かりやすく整理されている本を最後に紹介させていただきます。合同出版社から出されているイラスト版シリーズです。スキル別に

分かれて本になっていますので、きっと支援のヒントが見つかると思いますよ。

〈合同出版社から出されている本の一例〉

「絵でわかる こどものせいかつずかん」

- 1 みのまわりのきほん
- 2 しょくじのきほん
- 3 おでかけのきほん
- 4 おつきあいのきほん

「イラスト版 子どものお手伝い 子どもとマスターする49の生活技術」

「イラスト版 気持ちの伝え方 コミュニケーションに自信がつく44のトレーニング」

和歌山城ブルーライトアップイベント



平成29年4月2日（日）の「世界自閉症啓発デー」に、昨年に続き二回目となる和歌山城ブルーライトアップイベントが開催されました。

市役所前での出発式の後、和歌山城で、古川市議会議員、和歌山市職員の皆様、親会ありだの皆様と自閉症啓発チラシ入りの世界自閉症啓発デー記念ファイルを配りました。



事務局から

6月18日（日）に予定していました神戸方面へのバスツアーは、参加希望者が少なかったため中止となりました。

編集スタッフ： 尾崎富久子・江川かがり・奥野美和・植野比呂美

《発行》イコラ編集局（連絡先）尾崎富久子
e-mail: fukuko2939@gmail.com

※ イコラはWeb版も出しています。ぜひカラーでもお楽しみ下さい。バックナンバーもご覧いただけます。和歌山県自閉症協会ホームページからどうぞ！！